

豊國画

種員作

芳口集

経  
理  
あ  
の  
付  
家

國政堂

経  
理  
の  
付  
家

13  
3223  
32

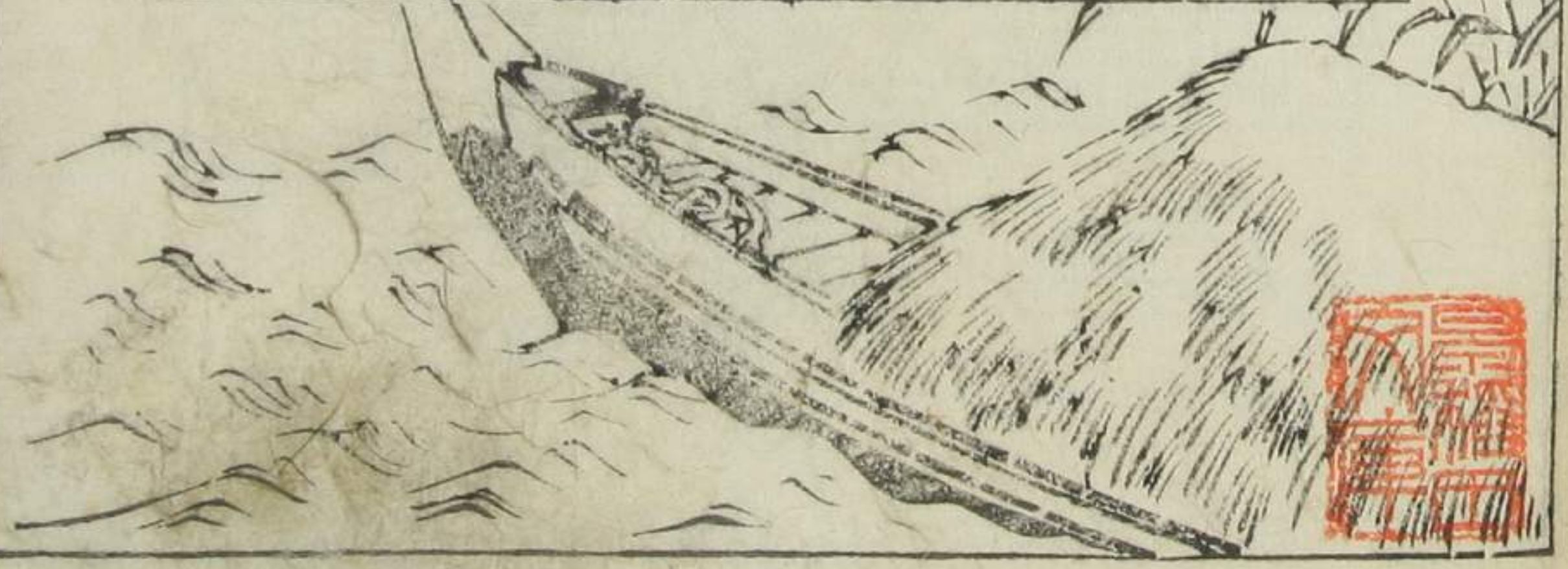




三編上



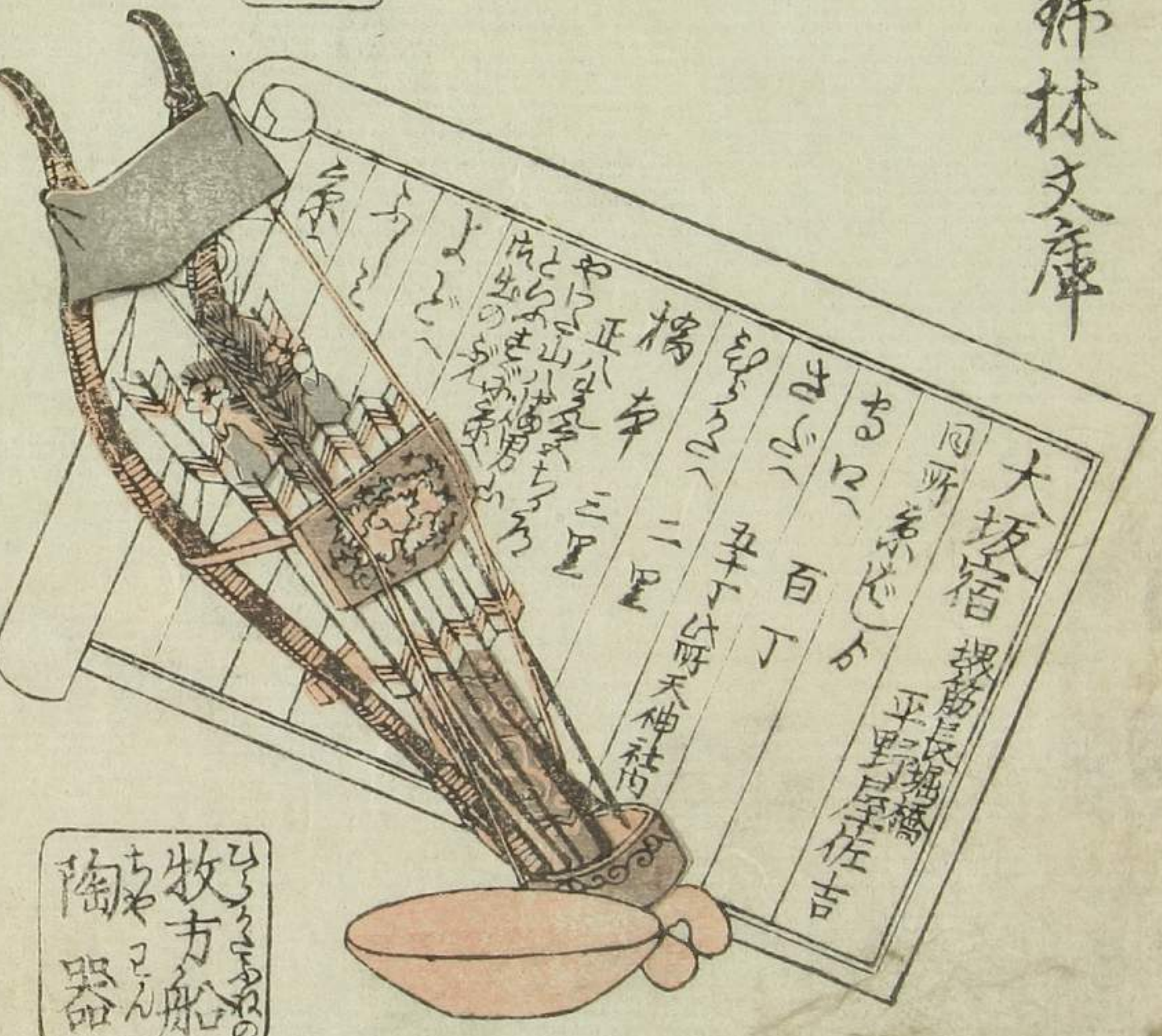
新編  
 長瀬  
 河  
 舟  
 遊  
 記



特  
 3223  
 32

種  
 員  
 作  
 合  
 系  
 小  
 芳  
 画  
 錦林文庫

破  
 魔  
 山



牧  
 方  
 船  
 陶  
 器

海へん海  
 人乃  
 ち急  
 種負



駿河國真津浦の漁人經六

海へん海  
 磯兵衛が妻  
 やはり

伊勢國司北畠殿  
 長臣  
 權木武者之助



うぬ  
 ろえ  
 ねん  
 解るが飯あど  
 横乃此のり  
 拵下亭

同國阿濃津の  
 旅店阿漕屋欲八



孝子  
手束弓太郎



谷吉  
再度の厄難  
荒就鳥小啄をせん  
とする

此口画  
三の巻  
小説  
弓太郎が  
物語と  
あわせて  
見ると

谷吉  
光明  
大士  
救世  
行基  
の



せき家の  
あき乃暮

○死神を招く

○網六むすめ  
藻鹽



○薄乃里  
畑作

○女房  
つま木

○一子  
山峯松

あけ

われ残

の

三



同國愛甲郡  
津久井縣乃  
修儉道  
我慢院怨鬼

此所画  
景の第四編  
目の巻目  
説相模國  
の怪談



相州  
鎌倉  
杖木座  
女田樂  
棧橋

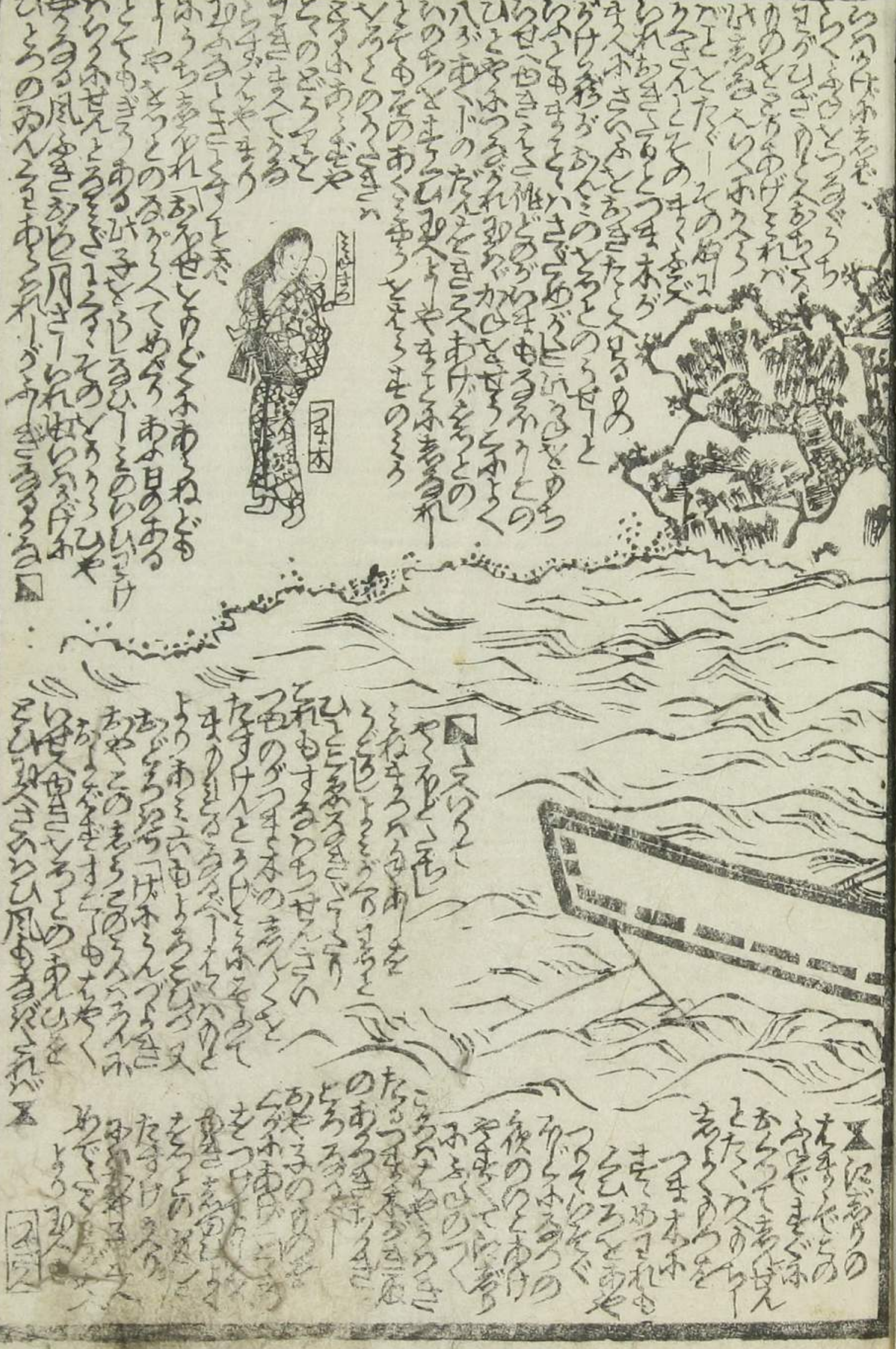
我慢院  
強念怨鬼







あつはのつくりかた  
あつはのつくりかた  
あつはのつくりかた  
あつはのつくりかた  
あつはのつくりかた



あつはのつくりかた  
あつはのつくりかた  
あつはのつくりかた  
あつはのつくりかた  
あつはのつくりかた

あつはのつくりかた  
あつはのつくりかた  
あつはのつくりかた  
あつはのつくりかた  
あつはのつくりかた



あやむし

あやむし









此の巻は、  
 花のついでに  
 鳥のついでに  
 魚のついでに  
 虫のついでに  
 草のついでに  
 木々のついでに  
 山々のついでに  
 水々のついでに  
 天々のついでに  
 地々のついでに  
 人のついでに  
 物のついでに  
 事々のついでに  
 理々のついでに  
 法々のついでに  
 徳々のついでに  
 義々のついでに  
 礼々のついでに  
 智々のついでに  
 信々のついでに  
 仁々のついでに  
 義々のついでに  
 禮々のついでに  
 智々のついでに  
 信々のついでに  
 仁々のついでに

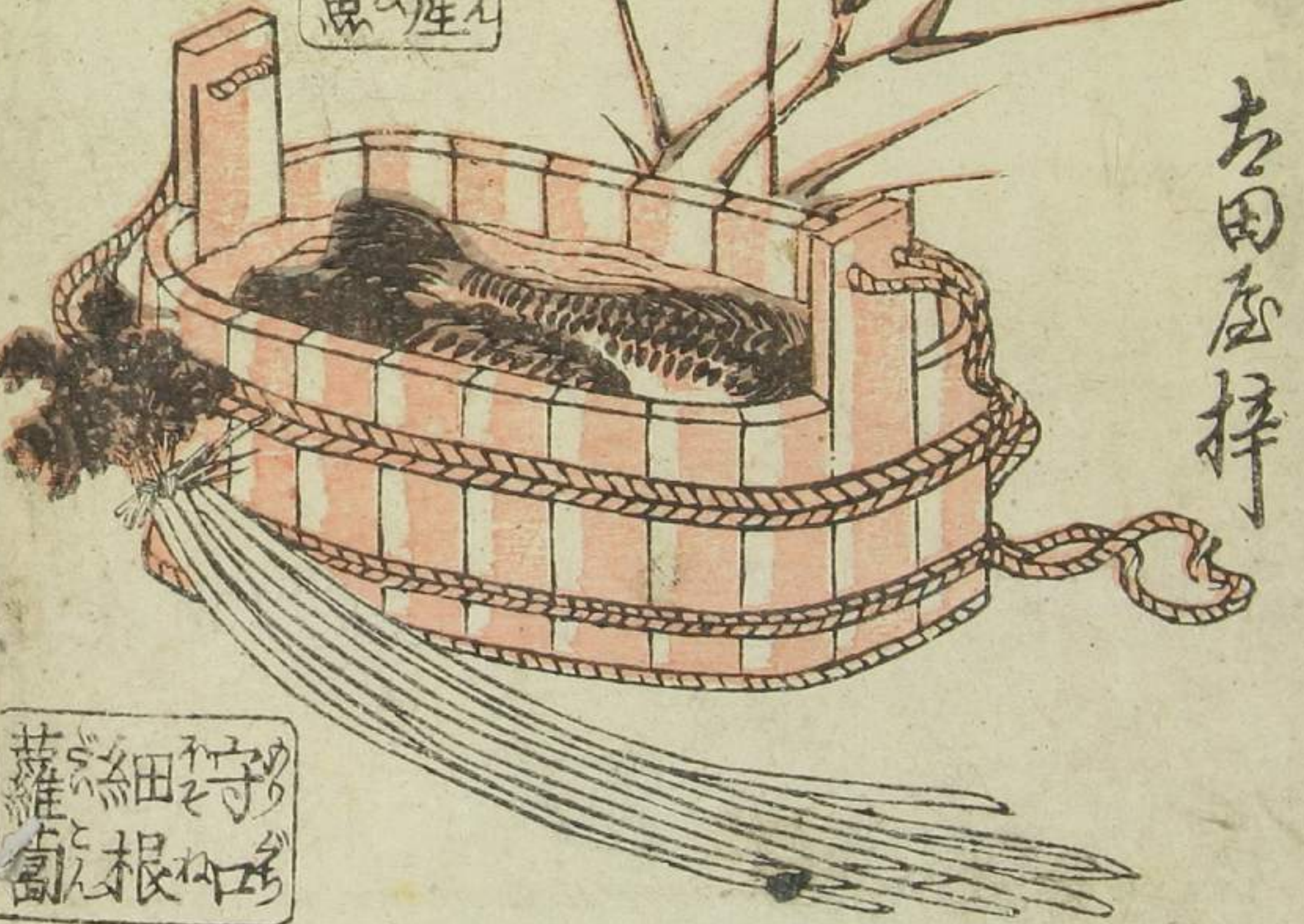


花のついでに  
 鳥のついでに  
 魚のついでに  
 虫のついでに  
 草のついでに  
 木々のついでに  
 山々のついでに  
 水々のついでに  
 天々のついでに  
 地々のついでに  
 人のついでに  
 物のついでに  
 事々のついでに  
 理々のついでに  
 法々のついでに  
 徳々のついでに  
 義々のついでに  
 礼々のついでに  
 智々のついでに  
 信々のついでに  
 仁々のついでに

たね  
 つい  
 あひ  
 むれ  
 志  
 志  
 志

第一集下巻

淀河名産  
 車下鯉魚



鶴殿芦

右田庄梓

守り細根







つまはたての  
 くらゐならぬ  
 ちよとをうらまへて  
 二種  
 ちよとをうらまへて  
 つまはたての  
 くらゐならぬ  
 ちよとをうらまへて

左の上をひとにこれを  
 おのふふむ六由六の  
 ようつひてこれひとふ  
 ちよとをうらまへて  
 つまはたての  
 くらゐならぬ  
 ちよとをうらまへて

左の中をむすめごころ  
 ありともひつげらる  
 つまはたての  
 くらゐならぬ  
 ちよとをうらまへて



日本  
 つまはたての  
 くらゐならぬ  
 ちよとをうらまへて  
 つまはたての  
 くらゐならぬ  
 ちよとをうらまへて

左の右をひとにこれを  
 おのふふむ六由六の  
 ようつひてこれひとふ  
 ちよとをうらまへて  
 つまはたての  
 くらゐならぬ  
 ちよとをうらまへて

左の左をひとにこれを  
 おのふふむ六由六の  
 ようつひてこれひとふ  
 ちよとをうらまへて  
 つまはたての  
 くらゐならぬ  
 ちよとをうらまへて













谷吉  
 眼病  
 平愈  
 又とちまき  
 はんぐせ  
 うやくも  
 小あひのえん  
 るり  
 びと  
 よう  
 平  
 眼  
 病  
 愈  
 又とちまき  
 はんぐせ  
 うやくも  
 小あひのえん  
 るり  
 びと  
 よう  
 平  
 眼  
 病  
 愈

谷吉  
 眼病  
 平愈  
 又とちまき  
 はんぐせ  
 うやくも  
 小あひのえん  
 るり  
 びと  
 よう  
 平  
 眼  
 病  
 愈



谷吉  
 眼病  
 平愈  
 又とちまき  
 はんぐせ  
 うやくも  
 小あひのえん  
 るり  
 びと  
 よう  
 平  
 眼  
 病  
 愈

谷吉  
 眼病  
 平愈  
 又とちまき  
 はんぐせ  
 うやくも  
 小あひのえん  
 るり  
 びと  
 よう  
 平  
 眼  
 病  
 愈



谷吉  
 眼病  
 平愈  
 又とちまき  
 はんぐせ  
 うやくも  
 小あひのえん  
 るり  
 びと  
 よう  
 平  
 眼  
 病  
 愈

谷吉  
 眼病  
 平愈  
 又とちまき  
 はんぐせ  
 うやくも  
 小あひのえん  
 るり  
 びと  
 よう  
 平  
 眼  
 病  
 愈



弘化三丙午年孟春新板目錄

肥後國八代郡  
の  
人

初編の  
第一番  
山城の  
せ  
旅僧

相摸國  
鎌倉の人

作者曰  
この本の  
作者は  
肥後國の  
八代郡  
に生れたる  
人なり  
其の  
名は  
芳画種員  
と云ふ  
なり  
其の  
書は  
此の  
世に  
初めて  
出た  
なり  
其の  
書は  
此の  
世に  
初めて  
出た  
なり



國芳画種員作

勸善懲惡 乘合 嘯  
前編柳下亭種員作  
出版一勇齋國芳画

同 二編三編 出版同  
四編五編 追々出版同  
画作

忠臣國性 爺將基合 戰全冊  
万亭應賀作  
溪齋英泉画

幼童教訓 面白し  
一巻入柳下亭種員作  
勇齋國芳画

大嶋臺猫嫁入 小種員作  
浪の鼓大物合戦 小種員作

美玉 香一包代三冊  
版 神田鍛冶町三丁目

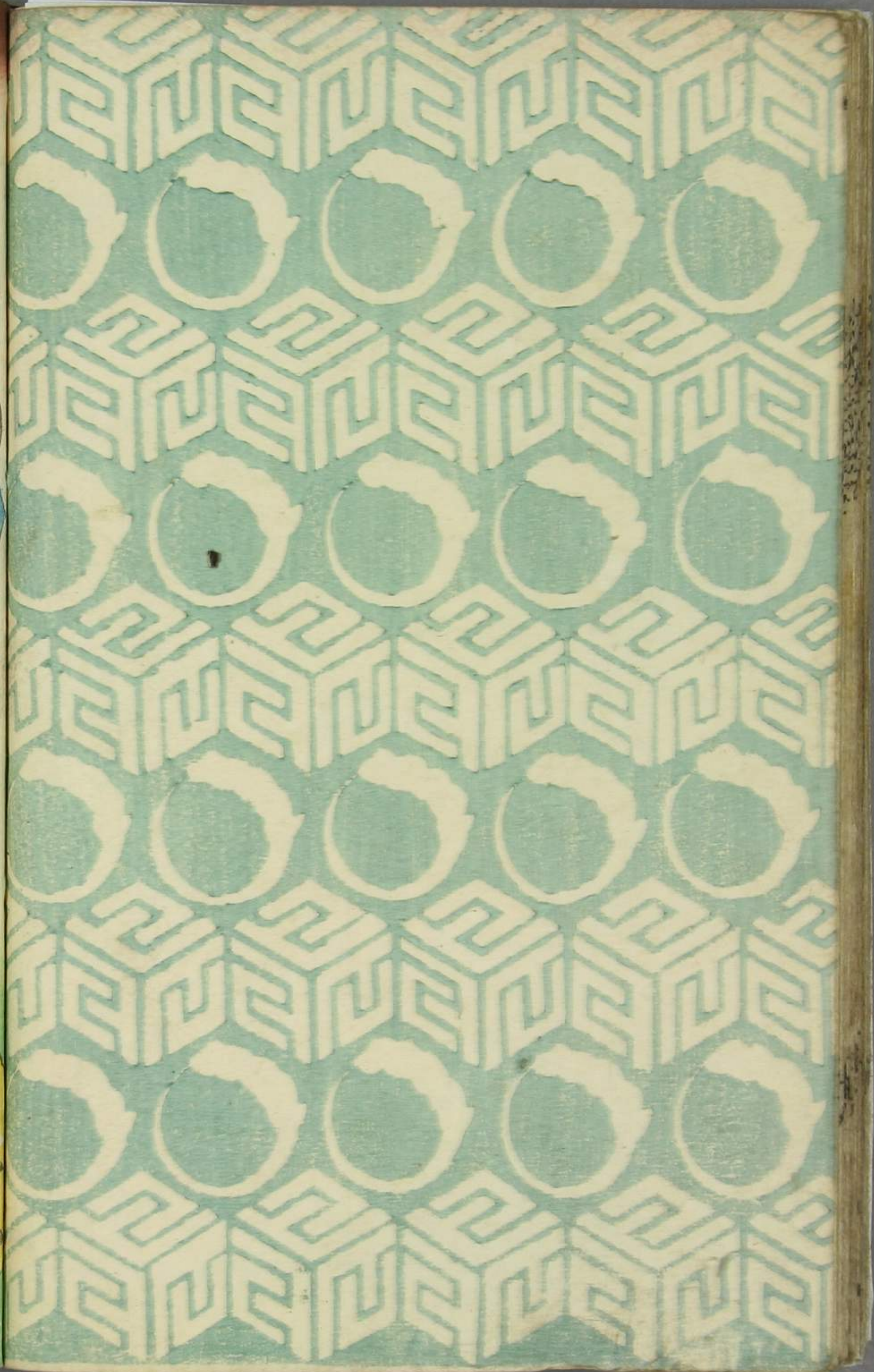
別製 濟美と云ふ書二冊大和  
元 太田屋佐吉  
江戸宝町三丁目金丸本屋九兵衛



乗合  
新  
弘化丁  
未新梓  
神田鍛冶街  
錦林堂文庫

四編

上



弘化四年丁未獻歲發市



相州鎌倉  
若宮小路使客  
鳩八幡五良藏

老實序  
此編三編三編の綴りたる先達て發見  
初編二編三編の綴りたる先達て發見  
腹稿のりか案外又文延て此の相摸  
と説終て肥後の巻の絶不し其端  
説而巳るれ第五編の微細其有  
續て出版るる口画不摸たる趣向と見  
て看官よりよく賢愛の上猶五編目も  
不相替御求之程偏奉希上よ  
于時弘化丙午仲秋  
花街玉樓新室  
柳下亭種員筆記

能理阿比  
葉南志  
種員拙著  
豊國畝

第四集上



門人爾手画



同 澤芳 主水女於貞

阿須加川治郎  
臼杵家藩士



あがら 壺  
多辺山

川治郎

同 源心

此所  
肥後の人  
あり



○大友  
左京之  
進如  
於貞  
出再  
同  
因夜刃

本家の  
仕女とるる



○同  
雨夜刃

○大友家  
長臣  
花岸  
藏人  
嫡男  
真十郎

霧嶋  
手下  
盗賊  
首領  
霧嶋  
凶藤太  
雲夜刃



我慢院の  
弟子強念

女田樂の  
木戸番  
花籠竹吉

依儉道我慢院



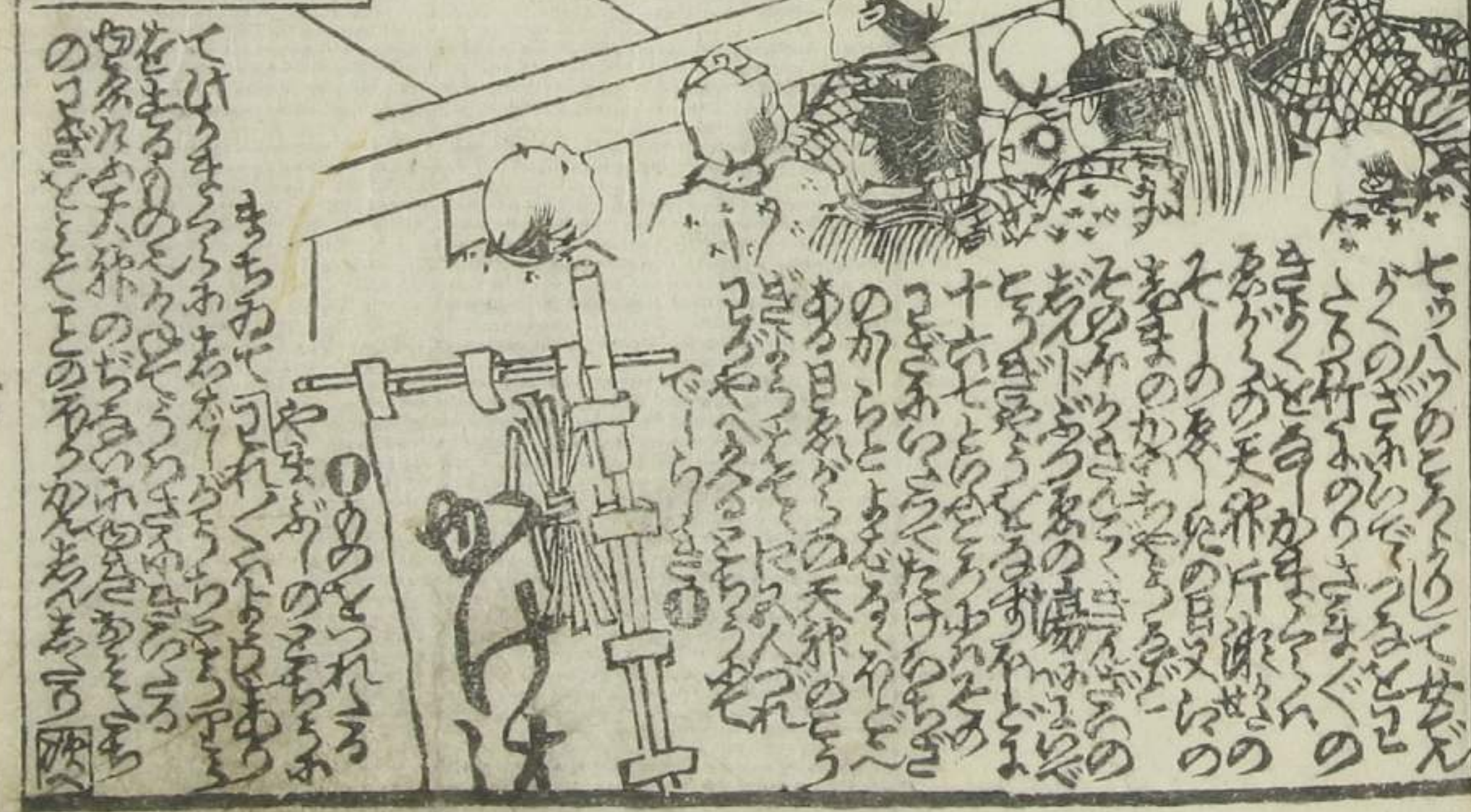
甲斐國の  
巴蛇捕  
蝦蟆九郎

女田樂の  
大夫棧



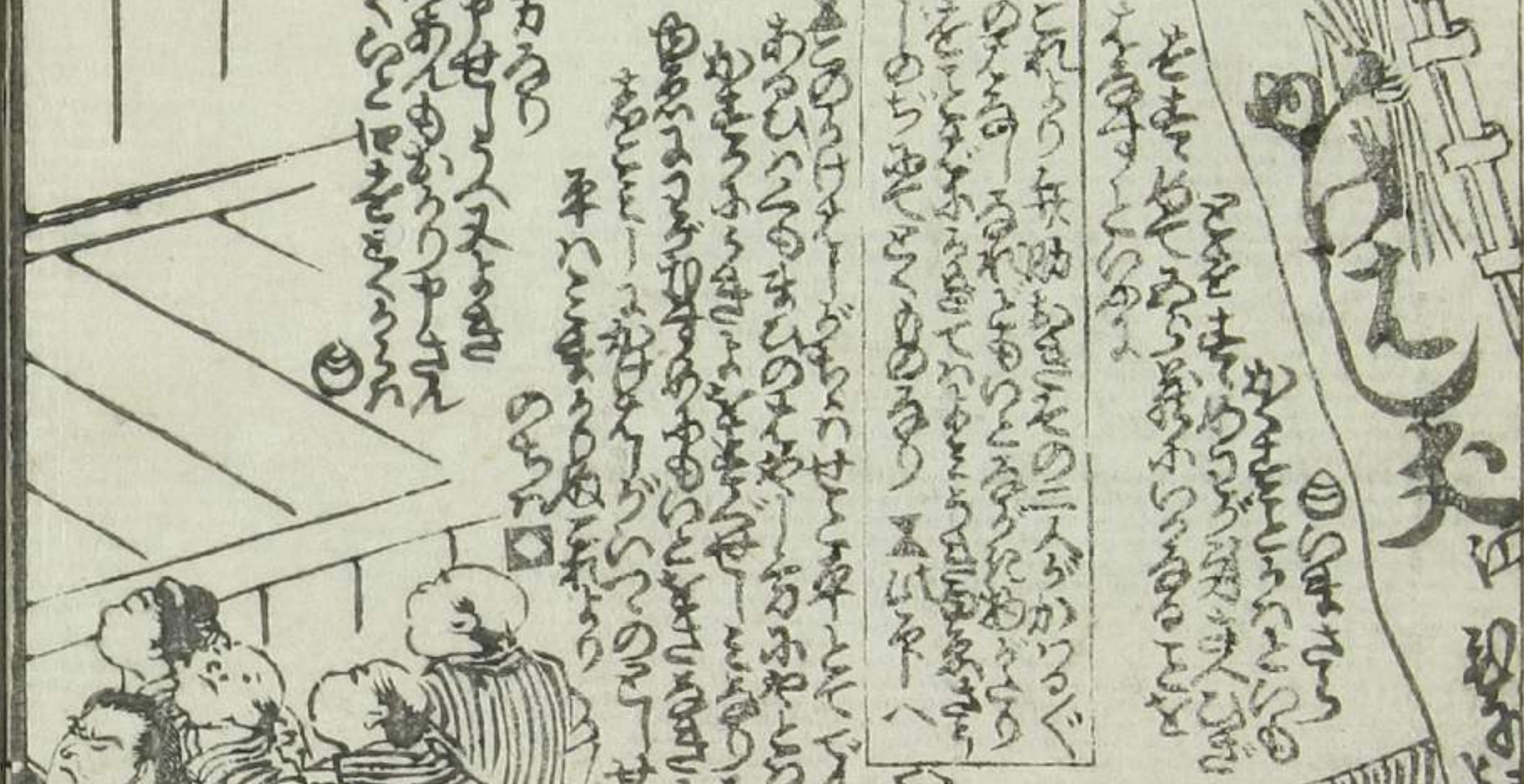
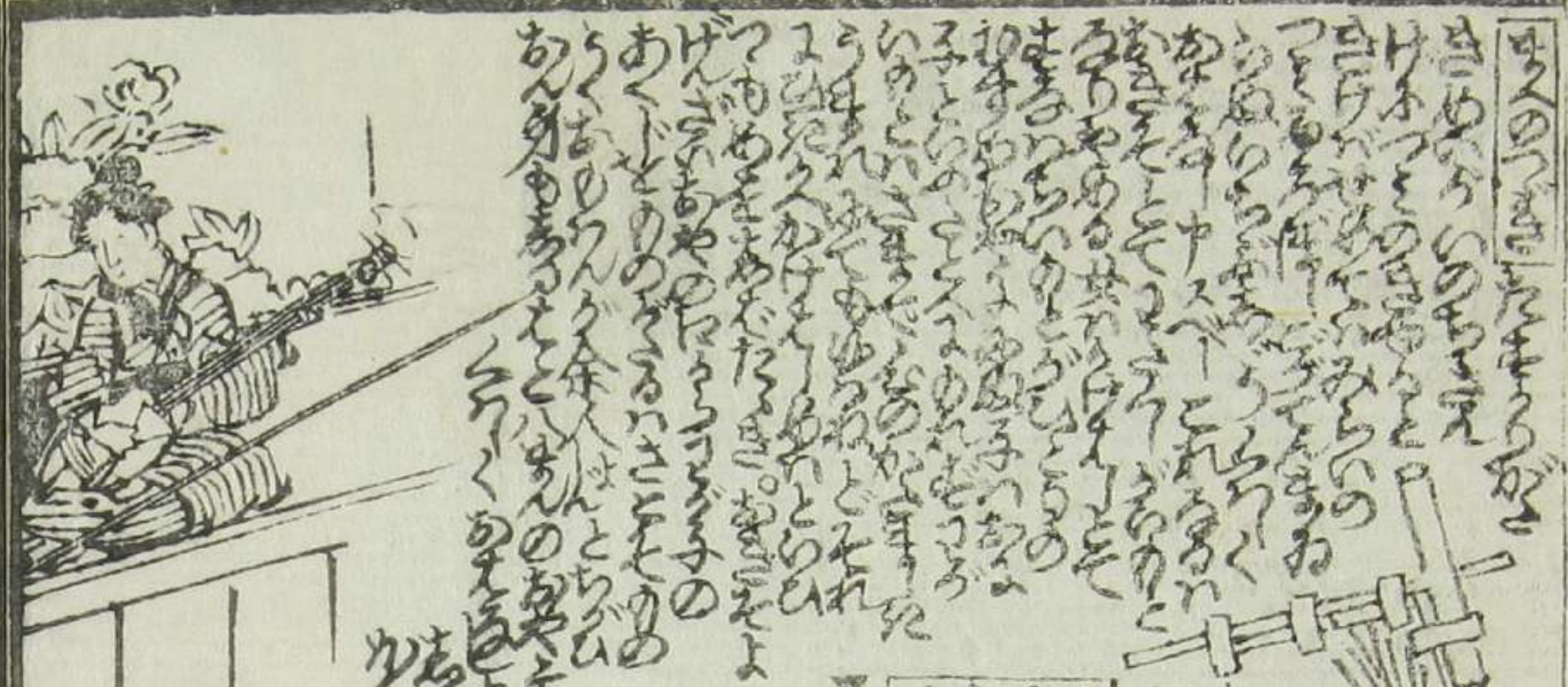






田代舞  
時の経業の  
るおあり

まぢあて  
てけりまら  
をまらぬ  
のひきま  
のひきま



あつたの  
あつたの  
あつたの  
あつたの  
あつたの  
あつたの  
あつたの  
あつたの  
あつたの  
あつたの

あつたの  
あつたの  
あつたの  
あつたの  
あつたの  
あつたの  
あつたの  
あつたの  
あつたの  
あつたの

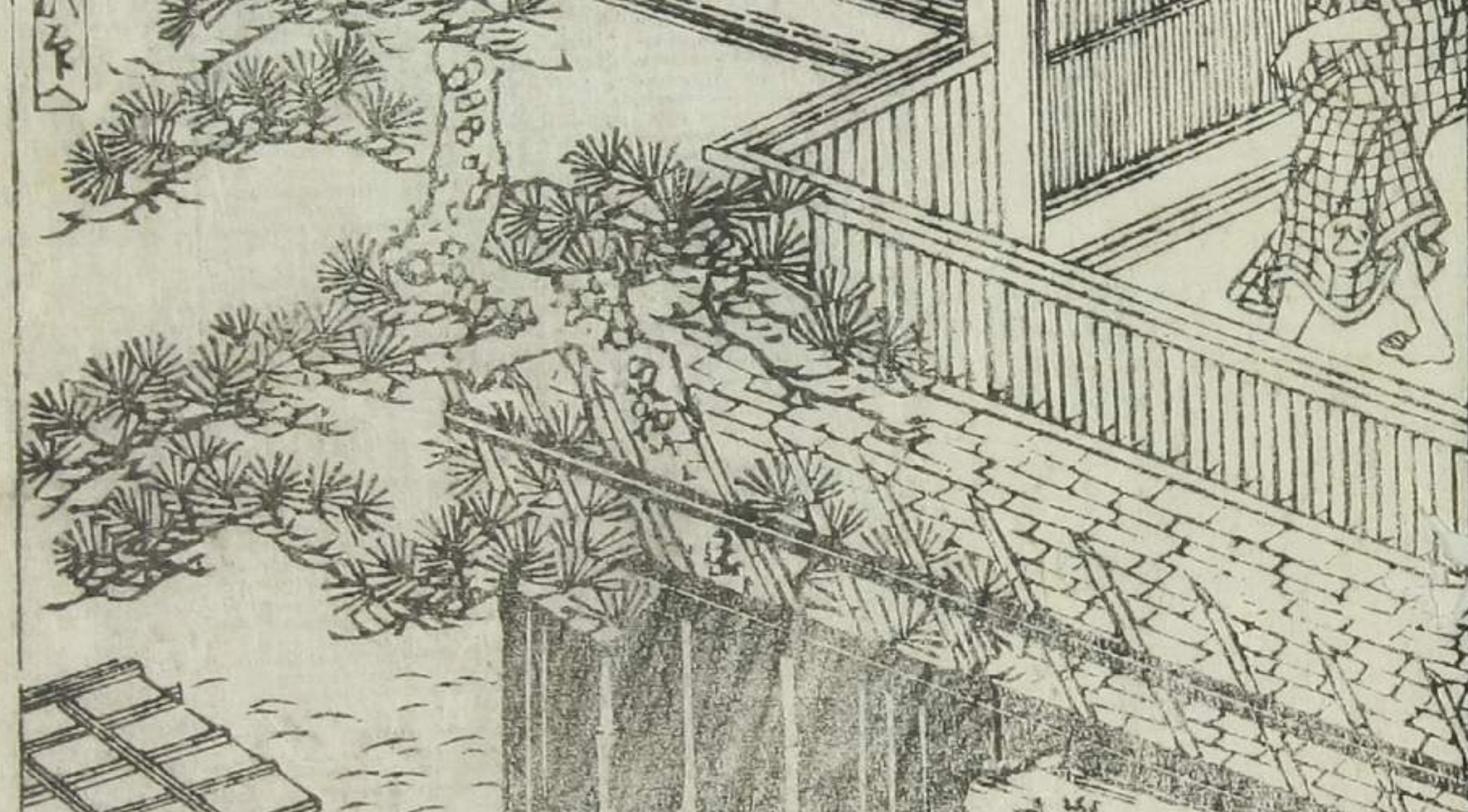
あつたの  
あつたの  
あつたの  
あつたの  
あつたの  
あつたの  
あつたの  
あつたの  
あつたの  
あつたの

かのうらひにさへ... けしきをたのしみ... ちやうどおなじやう... ありはなれども...  
 のうらひにさへ... けしきをたのしみ... ちやうどおなじやう... ありはなれども...  
 のうらひにさへ... けしきをたのしみ... ちやうどおなじやう... ありはなれども...



竹の子の... けしきをたのしみ... ちやうどおなじやう... ありはなれども...  
 竹の子の... けしきをたのしみ... ちやうどおなじやう... ありはなれども...

このうらひにさへ... けしきをたのしみ... ちやうどおなじやう... ありはなれども...  
 このうらひにさへ... けしきをたのしみ... ちやうどおなじやう... ありはなれども...



竹の子の... けしきをたのしみ... ちやうどおなじやう... ありはなれども...  
 竹の子の... けしきをたのしみ... ちやうどおなじやう... ありはなれども...

〇のりてい

〇のりてい

〇のりてい



此の画の  
主人の  
意を  
知る

竹合巻四

ついでに又かき入るん  
かかて又かき入るん  
は久井原の久  
いかに草のつれ  
ついでに又かき入るん  
かかて又かき入るん  
は久井原の久  
いかに草のつれ

正しきものを  
とてしるす  
かき入るん  
かかて又かき入るん  
は久井原の久  
いかに草のつれ

さああらざれば  
みよもせえ  
あつたつ  
どすのま  
さつと  
おうら  
おそあ  
ひよ  
おそあ  
ひよ  
おそあ  
ひよ

竹  
か  
あつたつ  
どすのま  
さつと  
おうら  
おそあ  
ひよ  
おそあ  
ひよ  
おそあ  
ひよ

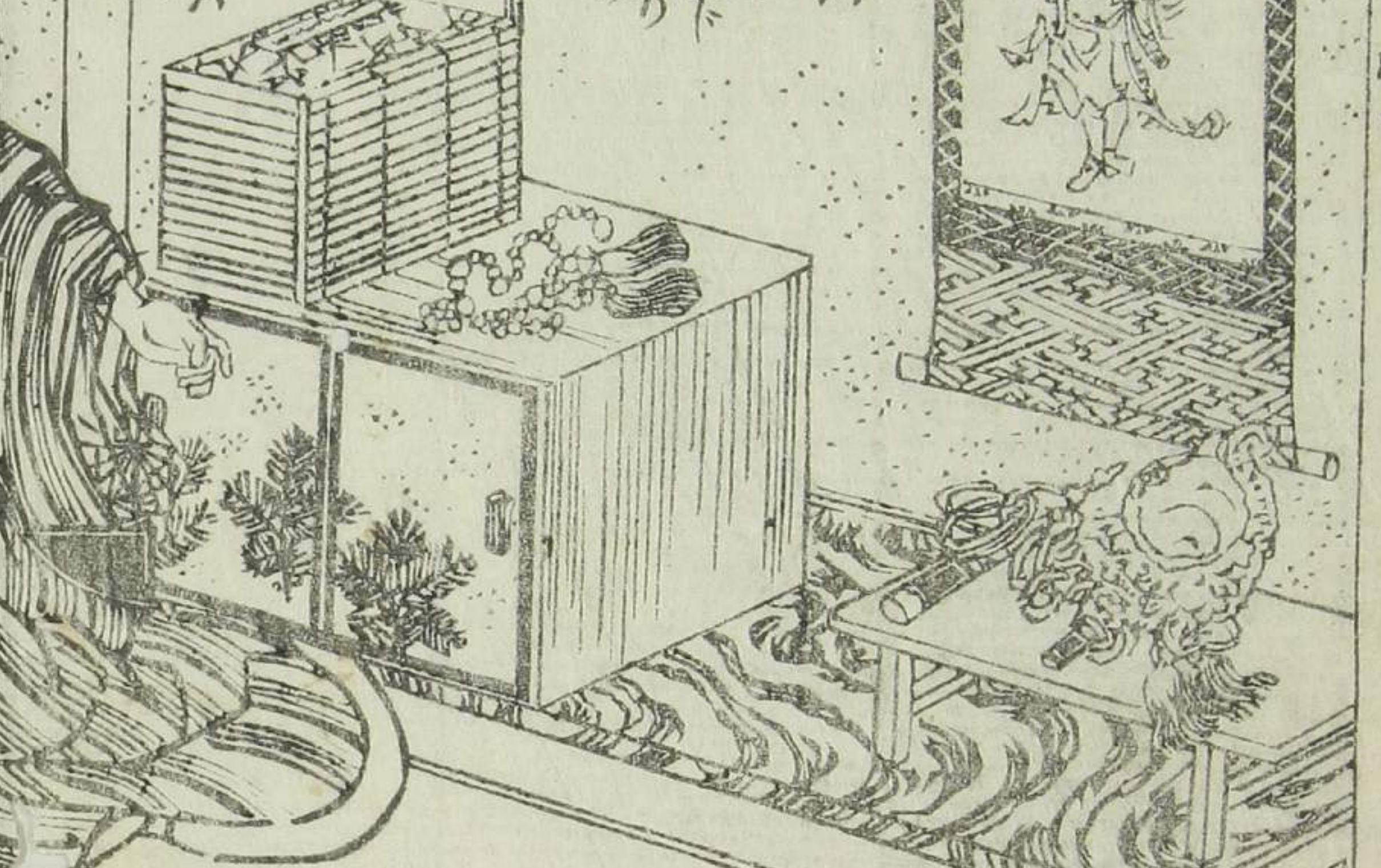
あつたつ  
どすのま  
さつと  
おうら  
おそあ  
ひよ  
おそあ  
ひよ  
おそあ  
ひよ

まうのうき  
 めがてりて  
 かまはん  
 うらま  
 つれたは  
 まうのうき  
 めがてりて  
 かまはん  
 うらま  
 つれたは



たてら  
 女

まうのうき  
 めがてりて  
 かまはん  
 うらま  
 つれたは



女



豊國画種員作

新刻 校正

御江戸昌平町鑑

朱字細註横本

半紙摺薄用摺

教訓 浮世めづの糸

全冊万亭應賀作 出版溪齋英泉画

業平源太東下 関東小六都上

旅硯街道日記

全冊柳下亭種員作 近刻一勇齋國芳画

孝子の志度六 悪賊の魔度六

雙言討処々車

全冊同 近刻同 画作

刊行書肆

東都

錦林堂

豊國画

種員作



四編

下





三十一

十一

中  
 心  
 集  
 第  
 四  
 集  
 下



門入  
あまのこ

第四集下











ついでに...

あつち...

あつち...



ついでに... あつち... あつち...

あつち... あつち... あつち...





〇たごの  
 とうらきふ  
 との夜あす  
 のまらちう  
 さのめくさの  
 あつよりニツの  
 火のあまひりぞ  
 山をさしてとひ  
 ぬきしとてこり  
 とりあめあつ  
 のさよりさそ又  
 おまそそそ  
 のあつりか  
 とのさつり  
 は名ののぞ  
 ころひさう  
 不死せ  
 又人の  
 りのあつ  
 終んかつふ  
 こからひ  
 ける



このをさつりかつふの  
 たちこれまふてしつり  
 をりぬきそ肥後ひのさす  
 おんがえんすのさす  
 どのさつりかつふの  
 聴主ひひあつべ  
 のひいせつりか  
 ひあつりか



のさつりか







天保五十辰春錦林堂新板目錄

教訓浮世の秘全三冊

漢齋英泉画

十返舎一元作  
勝川春亭画

飲堂間人作  
一圓有国丸画

三社縁記全三冊

柳下亭種員作  
豐國画

勸善懲惡乗合話全三冊

柳下亭種員作  
芳画

孝惡両面鏡全三冊

歌川國芳画

福德天長大國柱全三冊

香蝶樓國貞画

美玉 美を香代世画  
美を香代世画

江戸

神田鍛冶町百 太田屋佐吉板元

七つあちうなせ  
あつめ下つちう  
あつめくろくさつち  
あつめくろくさつち  
あつめくろくさつち  
あつめくろくさつち  
あつめくろくさつち  
あつめくろくさつち  
あつめくろくさつち  
あつめくろくさつち

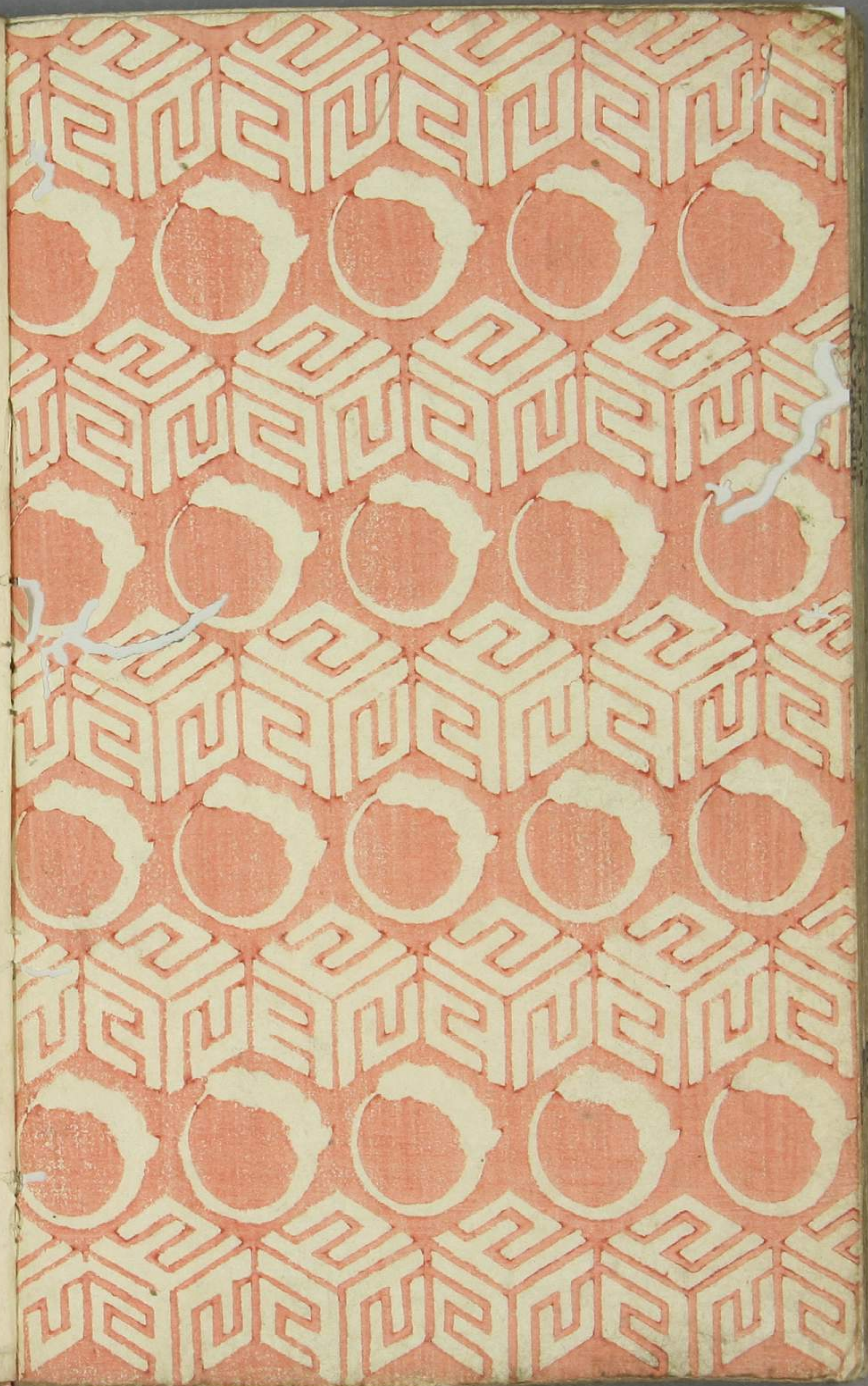


○お貞貞身出世して  
大友家の侍女とあつち  
貞の弟五編  
目まげり

桺下亭種員作  
香蝶樓國貞画

香蝶樓國貞画  
香蝶樓國貞画  
香蝶樓國貞画

蘇州府志



聖心所

同治庚午年